



RIKKYO SECOND STAGE

立教セカンドステージ大学(RSSC)は、立教大学が提供する生涯学習の場です。RSSCは、RIKKYO SECOND STAGE COLLEGEの略称です。

Contents

- P1 幸せな偶然
- P2～3 入学式 本科生の横顔
- P4～5 本科ゼミナール紹介
- P6 専攻科ゼミ便り 修了生の活躍
- P7 立教の人
- P8 立教Walk!



発行：立教セカンドステージ大学
 編集責任：野澤 正充 編集：ニューズレター23号委員会
 発行日：2019年9月15日
 〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1



幸せな偶然

立教大学名誉教授
立教セカンドステージ大学担当教員 平賀 正子



「幸せな偶然」というのは、セレンディピティ(serendipity)を平たく言い換えた表現です。この言葉は、イギリス人小説家のホレス・ウォルポールが『セレンディップの3人の王子』という童話にヒントを得て使い出した造語だと言われています。何かを探しているときに、

予想外の素晴らしい発見をすることを指して使われます。また、セレンディピティと関連づけられて語られる格言に、フランスの細菌学者ルイ・パスツールの「チャンスは準備が整っている心に訪れる」というものがあります。セレンディップ(昔のセイロン)の王子たちが、災難を逃れることができたばかりでなく、思わぬ幸運に恵まれたのは、彼らのたゆまぬ鍛錬、鋭い観察や深い思慮があったからにほかなりません。ただ待っているだけでは「幸せな偶然」に遭遇できないのかもしれないのです。

ノーベル賞級の発見という脈絡で使われることもありますが、見方を少し変えれば、私たちの日常の些細なことから、一生忘れられないような出来事まで、人生は予期せぬ幸せに満ちあふれていると解釈することも可能です。

RSSCに携わり5年目になります。40年近い教員生活

の最後のステージで、この学び舎に集う皆さんとの「幸せな偶然」の出会いを経験させていただくことになりました。私は、創立されて間もなかった放送大学教養学部でのテレビ、ラジオ、ビデオ会議という新しい媒体による生涯教育の企画実践を経て、2000年に立教大学に移り、昼夜開講の社会人対応大学院で主として教鞭をとってきました。いつも社会人の受講生に囲まれていたのですが、RSSCの活動の中で味わう受講生との繋がりは少し違っていています。同世代ということもあり、互いにある種の準備が整っている者にもたらされたまさに幸せな偶然なのだ感慨深く感じる事が多々あるからです。

どのような準備なのかについては、個々の受講生によって多様です。強いて共通項を探すとすれば、各人が現在人生のどんな局面にあるのかを見据え、これからどのように生きたいのかについて真剣に考えているということでしょうか。授業、ゼミ、社会活動などを通して、何を知識として得るのかだけでなく、どのように得るのかについて模索し、また和気あいあいとした雰囲気の中で行われる相互研鑽によって友情を育み、持続的なネットワークを構築することがRSSCでは常に図られています。毎年夏休みには清里清泉寮でゼミ合同合宿が開催されるばかりでなく、魅力的な講師を招聘した公開講演会や修了生との繋がりを深める同窓会活動、NPOなどによる社会貢献も盛んです。

RSSCで、あなたも「幸せな偶然」に遭遇してみませんか。



2019年度入学式 ～学び・出会い・感動の喜びをともに～



2019年4月3日満開の桜の中、立教セカンドステージ大学
本科12期生88名、専攻科11期生42名の入学式が立教学院諸聖
徒礼拝堂（チャペル）にて行われました。

荘厳なチャペルに美しいパイプオルガンの音色が響きわた
るなか式典が始まり、郭洋春学長の訓辞、諸先生方より祝辞
をいただき、入学の喜びと期待に胸を躍らせながら新たな一
歩を踏み出しました。

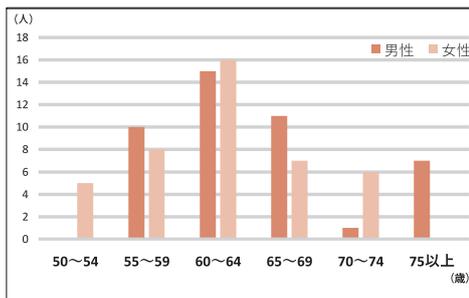


本科生の横顔

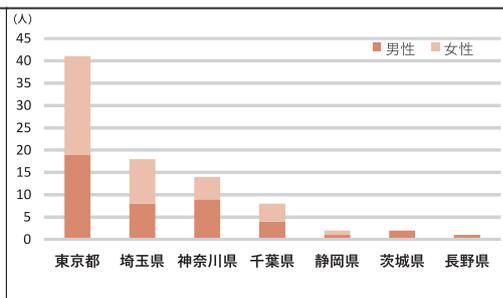
2019年度の本科生の仲間は、どんな人たちでしょうか？

大学生活にも慣れた6月末にアンケートを実施し、86名（男子44名・
女性42名）から回答をいただきました。
ご協力、ありがとうございました。

①年齢



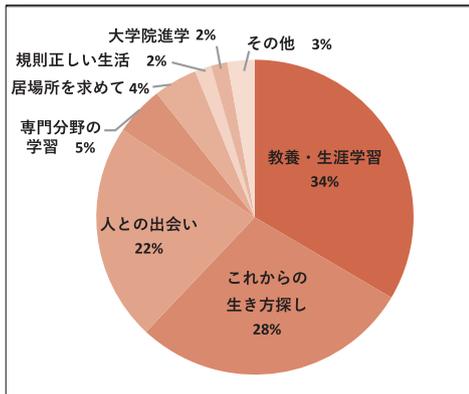
②居住地



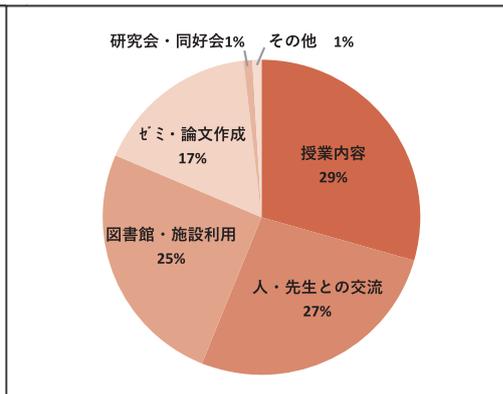
⑤受講科目数（春学期）

科目数	全体	男性	女性
5科目以下	9名	3名	6名
6科目	9名	6名	3名
7科目	9名	7名	2名
8科目	31名	13名	18名
9,10科目	28名	15名	13名

③入学の動機（複数回答）



④入学して良かったこと（複数回答）



⑥全学共通科目の受講科目数

科目数	全体	男性	女性
0科目	41名	23名	18名
1科目	26名	11名	15名
2科目	19名	10名	9名

⑦通学日数

日数	全体	男性	女性
1日	1名	1名	0名
2日	4名	3名	1名
3日	39名	20名	19名
4日	37名	19名	18名
5日	5名	1名	4名

⑧通学時間

時間	全体	男性	女性
30分未満	4名	2名	2名
30分～1時間未満	31名	16名	15名
1～1.5時間未満	29名	15名	14名
1.5～2時間未満	16名	9名	7名
2時間以上	6名	2名	4名

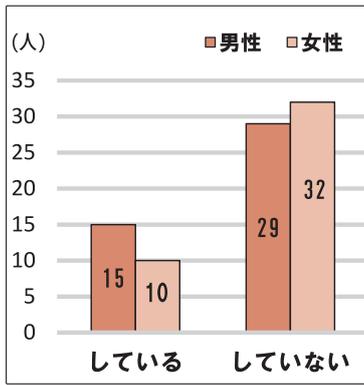
⑨1週間の滞在時間

時間	全体	男性	女性
10時間未満	18名	9名	9名
10～15時間未満	30名	14名	16名
15～20時間未満	27名	13名	14名
20～30時間未満	11名	8名	3名

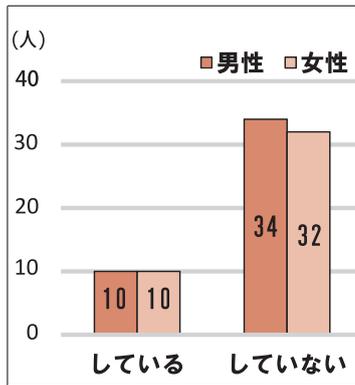
◇本科生から寄せられた多くのフリーコメントのうち代表的なものをご紹介します◇

1. RSSCの同期だと思えば親近感が湧き、打ち解けやすい。
2. 図書館の使いやすさ、スタッフの方々の対応の良さはすばらしい。
3. 多様な人や価値観との出会いは新鮮だ。
4. 授業もゼミも委員会活動もいろいろ頑張りすぎて時間が足りない。
5. 修了論文のために研究論文や書籍を読み込む時間ももっと欲しい。
6. 新しい知識や考え方に接し、とてもいい刺激を受けている。
7. リベラルアーツを極めた先生方が学問のエッセンスを講義して下さり、とても分かりやすい。

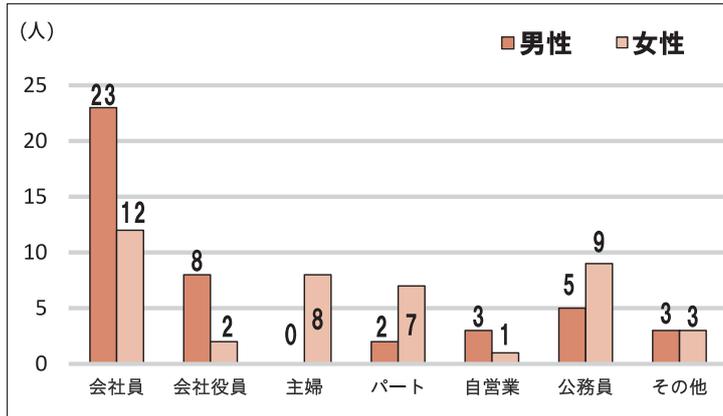
⑩仕事状況



⑪ボランティア活動



⑫現在の職業・元の職業



- ・職種はさまざまですが、教員と金融関係が多いようです。現在もお仕事を続けている方は全体の29.0%です。
- ・ボランティア活動を行っている方は全体の22.7%です。男性は地域活動(町会や小中学校)、女性は福祉関係(高齢者や障がい者サポート)が多いようです。

浮かび上がった12期生の横顔

64.4歳

平均62.9歳

61.2歳

<いちばん多い>

- ・ 受講科目数 8科目
- ・ 年齢分布 60~64歳
- ・ 住居地 東京
- ・ 通学日数 週3日
- ・ 通学時間 1時間

<いちばん大きい⇔いちばん小さい>

- ・ 年齢分布 81歳⇔50歳(2019年4月1日現在)
- ・ 通学時間 長野から高速バスで3時間20分⇔自宅から自転車で5分
- ・ 通学日数 週5日(25時間/週)⇔週1日(5時間/週)

受講生にインタビュー

100歳まで20年もある！ 松澤 勝さん

RSSCとのコンタクトは昨年末の新聞広告がきっかけでした。人生100年の声が聞こえてくる中で、自分の知的財産が枯渇し、あと20年持つかという懸念がありました。年明けにRSSCから募集要項が届いたことがきっかけで、改めて、一般学生との共通科目が選択できることと夏期集中講義があることを知り、知的レベルは高められると判断しました。

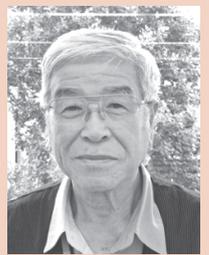


この大学の魅力とは、1. 修了論文へ向けてのテーマ探しをゼミ内でワイワイガヤガヤ詰めていく知的な楽しさ 2. ゼミの教材も刺激的です。例えば、『日本人の法意識』(川島武宜著)で契約意識の違いを再認識したこと、及び『ベニスの商人』の解釈で半世紀前に読まなかった原文に邂逅したことです。

私は生涯現役、生涯学習をモットーに60年間働きずくめの人生でした。「77歳を期にやりたい事をする」この一念と、「大学の風」に当たって学習してみたいという想い、さらには立教創立者C.M.ウィリアムズ主教の「道を伝えて己を伝えず」の教えに感動して、RSSCへの入学を決意しました。

高速バスで小諸から通学！ 清水 昭男さん

大学での先生方の教え方はさすが、内容が深く、話術もたくみで、私は電子辞書を片手に聞き入っております。



又、なにより楽しくなごむ場所は千石英世先生のゼミです。11人の仲間達は個性豊かでよく研鑽し合うように運営されています。これからが楽しみです。

私は島崎藤村が愛した、自然と詩情豊かな信州は小諸より、火、水、木、と毎週3日間、高速バスで通学しております。往復で420km、7時間弱です。今、毎日の通学が楽しくて、池袋東口から大学までの歩きでかいた汗を、マキムホール横のベンチで拭うのが、一番ホッとする時です。

これからも健康一番、最後までがんばります。

本科ゼミナール紹介

北山ゼミ



◆一気に北山ワールド

北山ゼミの特徴は、なんと言っても北山晴一先生のリーダーシップにあります。一年間かけて各自が修了論文を完成させるくらいの軽い気持ちで臨んだ女性6名、男性5名のゼミ生ですが、ゼミの冒頭からいきなり冷や水をかけられ一気に北山ワールドに引き込まれてしまいました。何と修論のテーマを次回の自主ゼミで各自プレゼンしろとのご下命を、第1回目のゼミで受けたのでした。以降、概要書の作成（本来は完成後に作られるはずのものです）、参考文献の提示（10冊以上!）、目次の章立て、章ごとの概要作成、第1章の冒頭部分の作成と続いています。

次から次へと繰り出されるメニューを前にアップアップ気味（笑^^）ゼミ生もちらほら。しかし、与えられた一年間の貴重な時間を有意義に、緊張感をもって、楽しく共有すべしとの北山先生の兄貴心と受け止め、セカンドステージを踏み出す決意を新たにしています。時には、ゼミを離れパリ談義に花を咲かせることも楽しみです。

◆フィールドワークを大切に

文化人類学がご専門の栗田和明先生にご指導いただく「栗田ゼミ」は、男性6名、女性5名の計11名です。第一回目のゼミは、年代や経歴、興味、個性も様々に異なるゼミ生が集まったの、緊張と不安の中でのスタートでした。先生から早速、修了論文のタイトルや文章構成、今後の日程等について、丁寧なご指導がありました。未だテーマを絞り切れていないゼミ生もおり、そのテンポの速さに驚いた者も。先生のグローバルな研究内容は、著作『アジアで出会ったアフリカ人』（2011年）にも紹介されていますが、フィールドワークを大切にする研究姿勢に共鳴して、テーマ設定では、「地域コミュニティ」「高齢者問題」等の社会的テーマを選択したゼミ生が多いです。入学して二か月が経過し、にこやかな先生の笑顔と助言に支えられて、当初緊張気味だったゼミの雰囲気も、今では打ち解けて、明るく、活発な議論が展開されるようになり、お互いの親睦と交流を深めています。

栗田ゼミ



鈴木ゼミ



◆笑顔で出発進行！

鈴木正男先生を囲んだ我がゼミは、男性6名女性4名の10名で構成されています。メンバーは50代から70代、これまでの経歴も学びの目的も目標もそれぞれですが、お互いを尊重しつつ意見を出し合い、和やかな学びの時間を共有しています。初めての出会いの日、先生から専門分野である人類学のお話や、長年携わって来られた立教大学原子力研究所の数々の功績のお話を伺いました。

先生を含めたゼミ員同士が認め合い、親しみ合っています。時にはゼミ員がお土産を配り、みんなで憩います。そんな和気あいあいとした空間をつくれるのは、穏やかでいつも笑顔の絶えない鈴木先生のおかげでしょう。しかし、学問追究へのまなざしは鋭く、私たちへの確で厳しいお言葉を投げてください。私たち10名は、鈴木先生に見守られ、課題の論文完成に向けて日夜努力しています。

◆千石イレブン

千石ゼミは、溢れる知性と個性の火花が散る、明るい集団です。「アカデミックに」を旗印に、文化と社会を語って知的刺激をゼミ生に与えてくださる千石英世先生。最年長で信州から遠距離通学、養蚕農家のアキオさん。気は優しく力持ち、天下国家を憂える朝ちゃん。ボランティア活動家として地域共生社会を考えるイチコさん。認知症予防に真剣に取り組む、お洒落な元保険セールスレディのケイコさん。登山と絵画を趣味とし、会社経験を客観的に見直そうとするショウイチさん。内外の美術に詳しく、特に日本画に造詣が深いジュンコさん。パソコンマスター・詩歌誌編集者に飽き足らず、源氏物語に挑戦するマコトさん。町会という地域活動の在り方を問う、若手男性のマサユキさん。映画・文学・芸術に幅広い関心と鑑賞経験が豊富なミカコさん。ピアノとNPOと尊厳死が最大の関心事のミツコさん。読書家で口八丁手八丁のロマンチスト、ユキシゲさん、という11人のメンバーが揃いました。

千石ゼミ



RSSCではすべての受講生がゼミに所属しています。経験豊かな先生方の親身な指導によりユニークなテーマの修了論文執筆に取り組み、切磋琢磨する中でゼミ生同士の懇親を深めています

◆成田ゼミは「前向き・協力・実行」ゼミ

成田廉昭先生のもと、12名のメンバーが修了論文に取り組んでいます。成田先生は、私達の主体性を重視され、その上で適切な助言や指導を行っていただけるので私達はとても嬉しく思っています

さて、これまでの人生を通して、多種多様な経験を積み重ねて来た私達は、毎週のゼミの集まりで、各自が持っている人生観や考え方を生かし、意見の交換を活発に行っています。ストレートに論文に迫っていくというよりは、問題に関連する様々な意見や質問を出し合い討論を行う中で、徐々に答えに至る光が見えてくるといった印象です。

さらに、懇親会や学外活動などは、親睦を図ると共に、互いに視野を広げることができ、今後の大きな力になってくれることでしょう。

成田ゼミは、「前向き、協力、実行」を旗印に一步一步力強く進んでいきます。

成田ゼミ



野澤ゼミ



◆世代を超えて～野澤ゼミ開幕！

ゼミがはじまって早々、民法がご専門の野澤正充先生からの宿題は、「『ヴェニス商人』を読む」。みな「宿題じゃなきゃ、読むこともなかったなあ」と言いながら、世界の法意識にはじまって、最後は「人肉裁判」について熱く討論。82歳法学部出身の長老は「おっしゃる通り！すばらしいねえ」と51歳の若者（！）の意見を盛り上げ、63歳が「ボクはこの場面が一番かっこいいと思うな」と独白で押し切れれば、まじめな67歳ゼミ長が「プロレスの筋書きみたいなどんでん返し」と表現し、まわりを驚かせました。

論文のテーマ出しも個性的で、「高校野球」「待機児童問題」「ムーミン」「地元の高齢者対策」「歌舞伎」「自動運転」「クリムト」「成年後見制度」などなど。

懇親会は中華料理や原宿でのバーベキューと58歳の宴会担当が大活躍。非常にお忙しい野澤先生もご参加くださり、「いや～みなさんの前向きな授業の参加のしかたには、本当に刺激をもらいます」とお褒めの言葉をいただき、またやる気になるのでした。

◆OK2ST3NFHY

事実や実体験に基づいた物語から、自然とは何かを問う「ネイチャーライティング」。人間と自然とのあいだに何らかの関係性を見いだす思考「交感」。これらを専門分野とする野田研一先生が触媒となって、メンバーそれぞれが相互に化学反応を起こしはじめています。これまでの経験を活かして「さらなる高みをめざす者」、この機会にこれまでとは異なる「新たな経験に向かって挑戦をはじめめる者」。それぞれの思いのこもった学びと活動がエネルギーとなって、「入学当初のころごし」、そして「現在の心境」、さらには「これからの歩みと成長」に変化をもたらしています。実りある終焉に向かって、希望を胸に秋学期に臨むつもりです。「TEAM NODA」の今後が大いに期待されます。

(注) OK2ST3NFHYは、ゼミメンバーの頭文字です。

野田ゼミ



◆ふりかえり、そして新たなる旅立ちへ

平賀ゼミ



ゼミのメンバーは、言語学者の平賀正子先生を筆頭に、これまで教師、翻訳家、主婦、商社マン、エンジニア、行政マンなど、様々なキャリアを持った仲間たちです。ここ立教に集った目的もそれぞれ「新たな出会いを求めて」、「過去を振り返りつつの自分探し」、そして「次のステップへの飛躍」、「“人生フルーツ”の幕を如何に下ろすか」と様々です。

修論については、平賀先生から、各自の個性を尊重した上での温かくきめ細やかな指導を頂いています。自主ゼミにおいても、各自のテーマについて自由でサポートティブな意見交換を行っています。

今後目白押しの野外活動・校内行事、そして飲み会・茶話会では、仲間との語らいを大切に。ゼミ以外でもお互い理解を深めつつ、“自由の学府”での出会い・勉学をきっかけに、これからの生き方、人生を更におもしろく創りあげ、みんなで再度の青春を満喫しましょう(´▽`)

専攻科ゼミ便り

本科修了後、専攻科に進んだ42名のゼミ便りです

上田ゼミ

◆自然に親しもう

ウォーキングが好き、山が好き、スポーツが好きという人たちが男女4人ずつ集まりました。本科の修了論文を共有したり、新しい課題の意見交換をしています。自然と触れ合うことが好きな仲間たちは上田恵介先生と一緒に、鳥観察会、ホテル観賞会、ゼミ後の懇親会で盛り上がっています。論文はこれから本格的に取り組みが始まります。

黒木ゼミ

◆十人十色のハーモニー

理論経済学をご専門とされる黒木龍三先生と男性3名女性6名の計9名のゼミ生です。『世間とは何か』（阿部謹也）を輪読し、日本社会と西欧の違い、日本文学から読み取る世間について、ブレインストーミングが始まります。懇親会ではイタリアンでワインを楽しむ、予想以上に楽しい黒木ゼミです。

高橋ゼミ

◆みんな違ってみんないい！

②面的に事象をとらえ、④たい土台と③しらを組み立て、①っかりした家のような論文を書き上げることが目標です。率直な意見交換と素朴な疑問に笑顔で応えるゼミの仲間たち。自由な時空を漂う8人を、高橋輝暁先生は知的でユーモアを交えながら明解な次ステージへ導いてくださいます。

坪野谷ゼミ

◆明るく・楽しく。有意義に！

今年のゼミは9名（男性7名、女性2名）、ゼミでは、各々の個性や仕事の経験を基に様々な意見交換を行い、日々研鑽しています。ゼミ終了後は、先生を交えながら今度は美味しいお酒でますます話が弾みます。坪野谷雅之先生は経済がご専門ですが、温和な人柄に加え、柔軟な思考と豊富な知識・経験で私たちを見守っていただいています。

渡辺ゼミ

◆己を探究する

アメリカ文学が専門の渡辺信二先生とメンバー8名（男性6名、女性2名）、年齢/経歴/興味や修了論文テーマも全く異なる個性豊かな集団となりました。立教セカンドステージ大学専攻科まで進学し、仲間との出会いに感謝し、ここでの学びが各自の人生に於いて有意義な一コマとなるよう大切に過ごしています。

RSSC専攻科修了生の活躍

10期生 山口一夫さん



私は現在、埼玉県で本年新設された「彩の国いきがいの大学プラチナコース（50名）」やその他の講師活動の傍ら、英語通訳ボランティアガイド（東京SGG所属）として、浅草や上野公園を中心に活動しております。

講師を始めるきっかけは、専攻科へ進み、修論テーマを検討する中で修了後の自らの人生シナリオについても真剣に考えねばと思ったからです。そして、同じ悩みを他の多くの仲間も抱えていることに気づき、修論テーマを『人生100年時代のセカンドライフ・デザイン』に決めました。修論を書きながら同じテーマで講座を企画・開発するという大胆なことを思いつき、合わせて埼玉県の講師募集試験にも挑み、運よく採用となりました。その後、2日間のパイロット講座実施の機会をいただき、その結果が評価され講師としての第一歩がスタートしました。

RSSCを振り返ると、自分の中では専攻科をゆるやかな大学院と想定し、修論テーマを修了後も仕事や社会貢献活動を通して追いつける研究・学習テーマとして位置付けました。このような自由度に加え、第二の人生を共に励まし合える50代～70代の素敵な若者達と出会えたことが私の財産となりました。

10期生 山本順子さん



私が立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科に進学したのは、RSSC修了生の方々が多く進学されていて、身近に感じたからです。そして、RSSC修了後、もっと継続して学びたいと感じたからです。RSSCでは「オリンピック・パラリンピック・レガシー研究会」に入りました。パラスポーツの応援がライフワークとなっています。それもこれも、一緒に活動する仲間がいたからです。

2020年パラリンピックのボランティア活動をしたと考えていた時、「手話」が出来たらいいなあと思い、習い始めました。その中で、手話には閉ざされた言語、歴史があったことを知り、大学院では、「ろう者と聴者の相互理解を進めるための手話の社会的意義に関する研究」について研究しようと思っています。これは、専攻科の修了論文でも同じテーマで書きましたが、より一層、深く掘り下げていきたいと思っています。

考えてみれば、現在の自分があるのは、RSSCで出会った先生から、学ぶ素晴らしさを得たからです。また友人からは、多くの気づきをもらいました。家族には、理解と応援をしてもらっています。「兎に角何時迄も気を若く持って、引っ込み思案をしないということが、健康には何よりの良薬であるように思われる」という渋谷栄一の言葉が好きです。

ニューズレター 23号委員が立教学院のキーパーソンからお話を伺いました。

RSSCで価値観をResetし、能力をRemindして、人生をRestartしよう

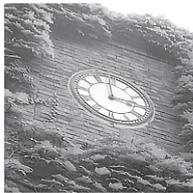
立教セカンドステージ大学学長・立教大学総長 郭 洋春先生

立教セカンドステージ大学（RSSC）は2008年に、立教大学が生涯教育の新しいスタイルを提供する目的で設立されました。以来、教職員が一致協力して充実を図り、昨年、10周年を迎えています。最近、RSSCを模倣してシニア教育を行う大学が他にも現れましたが、これはRSSCが生涯教育のパイオニアであり、モデルであることの証です。

RSSCの成功は教職員の努力に加えて、受講生の学びへの熱意と修了後の人生の歩みに依るところが大きいのは間違いないところです。我々が提供しているのは、単なる学び直しやリカレント教育でも、教養講座でもありません。立教大学の最大の強みであるリベラルアーツを幅広く学ぶことにより、シニアの方々が自分の能力を再認識・再発見して、人生の次のステージを価値あるものにするためのアイデンティティを確立する場です。RSSCを修了したシニアは2019年度で1,000人に達し、ネットワークを作って社会に貢献する責任を果たしつつ、豊かな人生を過ごしています。RSSCも社会貢献活動サポートセンターを中心に、OB・OGの活動を応援する体制を整えています。

RSSCのRは立教のRですが、私はRSSCで学ぶ意義、即ち、価値観をResetし、能力をRemindして、人生をRestartするという意味を「3つのR」に込めたいと思います。2020年度はRSSCをさらに拡充する計画であり、多くのシニアの方がこの学びの場を目指されるのを期待しています。

今後もしも時間ができたら、私もRSSCの教壇に立ちたいと思っています。不平等をなくし社会を明るくする「平和経済学」をシニアの方々といっしょに考えたいですね。



受講生をキャンパスに迎え入れる、本館の時計塔。時計は、1919年にレンガ造りの建物群が完成した時に設置された、英デント社（英国議会のビックベンの時計を作ったメーカー）製の分銅式のものです。

立教大学チャプレン 宮崎 光先生

立教大学の正門右手に、立教のシンボルである立教学院諸聖徒礼拝堂（チャペル）があります。優しい笑顔が魅力的な宮崎先生にお話を伺いました。

「チャペルは、来年1月で礼拝堂聖別から100年を迎えます。100年間のいろいろな人の想いがあり、池袋の街とともに歩んできたとてもアットホームな地域連携のチャペルです。卒業生にとっても初期の頃から変わっていないメモリアルエリアだと思います。私たちチャプレンは人と一緒にいることが仕事で、いろいろな人に会います。人間は皆不思議で、人それぞれ全く違い、そのような一人一人のキャラクターに出会えることや日常の一人一人の輝き、命の輝きを日々感じられることが喜びです。

セカンドステージの皆さんと一緒に聖書を読むときには、人生の経験を積んだ厚みを感じます。聖書は経験があればあるほど、自分の人生の経験と重なり合って身近で面白いものだと思います。チャペルは皆さんのホームです。みなさん『ホームカミング！』修了後もいつでもお待ちしております。」



立教大学図書館長 中村 百合子先生

『入館証（＝受講証）には価値がある。』RSSCの方が言った言葉ですが、素晴らしい言葉だと思います。」中村先生にお会いして、最初におっしゃった言葉です。また「図書館は、知的な刺激があり、人生を豊かにする場所です。」とも。この場所に入れる鍵をセカンドステージ全員が、持っているわけです。この鍵を使わない選択はないと思います。「今の学生は、新聞をあまり読みません。RSSCの方々が新聞を読んでいる姿を見せるだけで価値があります。」セカンドステージの年代は、新聞から知識を得たことを若者に教えてあげましょう。「分からないことがあったら、カウンターに説明する人がいますから、ドンドン聞いて下さい。」分からなければ、聞けばいいのです。この素晴らしい図書館を活用しない手はないと思いました。

事務室30名を引っ張り、現場の矛盾や、葛藤に携わることが楽しいとおっしゃる就任2年目の中村先生でした。



チャペルはみなさんのホームです

入館証には価値がある

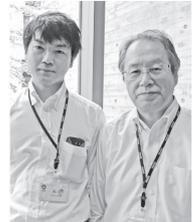
立教 Walk!

池袋キャンパスの植物を巡る



正門をくぐると2本の大木と葛をまとった美しい校舎が私たちを迎え入れてくれます。

「立教大学が特に大切にしているのは、ヒマラヤスギ、ツタ、スズカケノキ、そしてコウライシバの緑。春の養生期間以外はどうぞ芝生の中へ」そう教えてくれたのは、施設管理の鈴木さんと専門知識をもつ神山さん。四季折々の植物を見ながら散歩をするのもいいですね。



植栽担当
神山さん 鈴木さん

春はサクラにフジ、夏のツタとシバは蒼く、秋のツタとモミジは色づき、冬のヒマラヤスギのイルミネーションは大変幻想的です。

モリス館のツタ
時計台右側の一部には冬でも枯れないギズタという一番古いツタ株が残っています。1924年、バスケット部の優勝記念に神学院のチャペルから移植されたものです。

ヒマラヤスギ
樹齢100年超え、高さ30mを超えるこの木は、樹形維持のため、3年に1度の剪定が欠かせません。12月のイルミネーションは今でも色のついた電球装飾です。

スズカケの並木
実は原産地が異なる3つの種類が植えられています。1本の枝に3つ程度の実がつく貴重な原種は、昨年倒木の危険性から伐採。現在は挿し木から苗を育成中です。

第一食堂のシェフはこの人なのだ！

入口の「APPETITVS RATIONI OBEDIANT」（食欲は理性に従うべし 哲学者キケロ）を見上げて入った食堂は、高い天井と差し込む陽光に包まれて、ハリ・ポッターの映画のよう。つたの絡まるレンガ造りの建物は、1919年建造、都の歴史的建造物に選ばれています。様々な学食ランキングでも常に上位を占めている第一食堂ですが、そのメニューは40種類を超え、毎回選ぶのに迷うほど。メニューボードもお洒落で食欲をそそります。

今回は食堂を40年にわたって支えている高橋さん(調理師)にお話を聞きました。全て手作りですし、注文を受けてから作るので、熱々が食べられます。

評判を聞いて一般の方も多く訪れているとのこと。昼食時の長蛇の列はその人気と共に納得です。一番人気はカツ丼です。はらべこRSSC受講生のエネルギーチャージは第一食堂で。キケロの言葉を頭の片隅において、美味しく感謝していただきましょう。



オープンな雰囲気の新座キャンパス

新座キャンパスは、ゆるキャラグランプリ2018で優勝した「カバル」で認知度が上がった志木市の東武東上線志木駅と、手塚治虫さんが最後に過ごしたアトリエ(スタジオ)があり鉄腕アトムが住民登録されている新座市のJR武蔵野線新座駅のほぼ中間点にあります。

広大な敷地には、講義棟(1号館~8号館)、事務棟、チャペル、図書館、体育館、スタジオ棟、野球部グラウンド、サークルの部室を集めたユリの木ホール、全天候型の陸上競技場、日本水泳連盟公認のセントポールズ・アクアティックセンターなどが機能的に配置されています。

このゆったりとしたオープンな雰囲気の中で、観光教育では全国最高峰の「観光学部」、新しい福祉社会の構築を学ぶ「コミュニティ福祉学部」、心・身体・映像を総合的・多角的に追究し、現代に即した新しい人間学を学ぶ「現代心理学部」の3学部の4,600余名の学生が切磋琢磨しています。

また、敷地には四季折々の草花や憩いの場が多く、都会の喧騒から離れて勉学をしたいと思っている人にはお薦めのキャンパスです。



編集委員より

取材にあたっては立教学院展示館の豊田雅幸先生のご協力をいただきました。RSSCの素晴らしさを伝えたいという委員会の熱意が読者の皆様に伝わりますように。写真は後列左から館林信、中村昌司、柴田稜威夫、福田剛、庄司弘、湯本則子、前列左から山口恵子、黒木龍三先生、鈴木正男先生、五十嵐訓子 です。

